



内分泌攪乱化学物質については、将来にわたって人の健康や生態系への影響が懸念されている一方、科学的には未解明な点が多く残されており、環境保全上重大な課題と考えています。このため、環境省では環境実態調査や有害性評価等を進めるとともに、国際的な連携の下に諸外国や国際機関等との情報交換を進めています。

この一環として、平成10年度から毎年「内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」を開催しており、世界各国から第一線の研究者のご参加を得て、質の高い議論が活発に展開され、国内外から高い評価をいただいております。

本シンポジウムの主なねらいは、

- ・我が国をはじめとする、世界各国の内分泌攪乱化学物質問題への取組状況について、情報を共有すること
- ・国際的な連携・協調により進めている内分泌攪乱化学物質問題の研究の方向性について議論すること
- ・地球規模、かつ身近な問題でもある化学物質への対応について、各方面の関係者による多面的な意見交換を行うこと

の3点です。

今年度は、昨年WHOが取りまとめた「内分泌攪乱化学物質に関する科学的知見の現状についての国際的評価」(グローバルアセスメント)を受けて、今後の研究における将来展望を明らかにするため、グローバルアセスメントの策定に関わった海外講師による講演等を予定しています。また、研究者・産業界・教育者等の立場から内分泌攪乱化学物質問題に関するこれまでの取組を紹介いただくほか、内分泌攪乱化学物質問題における政治の役割をテーマとしてパネルディスカッションを行います。

この国際シンポジウムが、世界各国の研究者はもとより国民にとって意義のある会議となることを希望しております。是非とも多くの方々のご参加下さるようお願い申し上げます。

2003年 9月

環境大臣 鈴木 俊一

国際シンポジウムのプログラムについて

本プログラムは、一般向けプログラム、専門家向けプログラムの2部構成となっています。

3日は、国民に幅広く参加いただくためのプログラムとして、特別講演、内分泌攪乱化学物質問題に対するこれまでの取組についての報告及びパネルディスカッションを行います。

4日、5日の2日間は、研究者を対象としたプログラムで、専門的な内容について科学的な議論を深めることを目的としたセッションを開催します。

参加申し込み先

参加を希望する方は、氏名、所属、住所、電話、FAX番号、E-mailアドレス、参加希望日、ご意見・ご質問*を明記の上、E-mailかFAX、もしくはハガキで下記運営事務局(株式会社コングレ内)宛にお申込みください。参加費は無料です。

※12月3日の一般向けプログラムの「これまでの取組」及び「パネルディスカッション」では、質疑応答の時間を設けることとしています。ご意見・ご質問のある方は、どちらのセッションについてのご意見・ご質問かを明記の上、申し込みと併せて事務局までご送付下さい。

運営事務局

〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル 6F 株式会社コングレ内
「第6回内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」運営事務局
TEL: 03-3263-5394 FAX: 03-5216-3115 E-mail: eed03@congre.co.jp

締め切り

平成15年11月15日(土) 必着(申込み多数の場合は、先着順となります。)
*参加証の発送は、11月以降となります。

第6回 内分泌攪乱化学物質問題に関する 国際シンポジウム

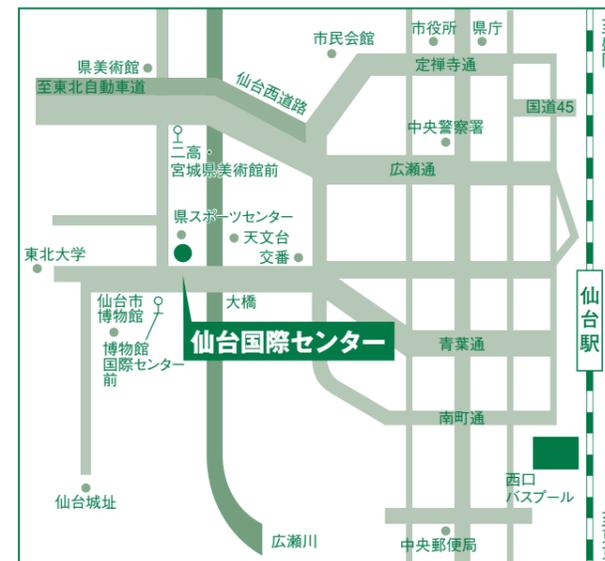
▶ 2003年12月3日(水)~5日(金) ▶ 仙台国際センター

■主催 環境省 ■後援 宮城県 仙台市
■協力 環境ホルモン学会(正式名:日本内分泌攪乱化学物質学会)

International Symposium on Environmental Endocrine Disrupters 2003

会場周辺地図

map



【会期】2003年12月3日(水)~12月5日(金)

仙台国際センター

〒980-0856 仙台市青葉区青葉山1
TEL: 022-265-2211 FAX: 022-265-2485

【交通のご案内】

- バス
仙台駅(西口バスプール⑨番)から10分
- タクシー
仙台駅から7分 仙台空港から35分

参加申し込み・お問合せ

株式会社コングレ内

「第6回内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」運営事務局
〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル 6F
TEL: 03-3263-5394 FAX: 03-5216-3115

E-mail: eed03@congre.co.jp

シンポジウムの内容に関するお問合せ

環境省総合環境政策局環境保健部環境安全課

〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2
TEL: 03-3581-3351(内線6354) FAX: 03-3580-3596

E-mail: ehs@env.go.jp

ポスターセッションに対するご応募・お問合せ

環境ホルモン学会(正式名:日本内分泌攪乱化学物質学会)事務局

〒305-0061 茨城県つくば市稲荷前 24-1-202
TEL: 029-859-0818 FAX: 029-859-0851

E-mail: jsedr@mb.infoweb.ne.jp

プログラム

Program

■ 仙台国際センター

12/3 (水) 一般向け プログラム	午後	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開会挨拶 <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境大臣挨拶 ・ 来賓挨拶 ● 特別講演 ● これまでの取組 ● パネルディスカッション
	夜	(レセプション)
12/4 (木) 専門家向け プログラム	午前	セッション1 「海外の取組状況」
	午後	セッション2 「基礎科学」 セッション3 「野生生物」
	夜	セッション4 「曝露」
12/5 (金) 専門家向け プログラム	午前	セッション5 「人健康影響」
	午後	セッション6 「評価基準」 ○ 閉会挨拶

※学会主催のポスター発表会を同時開催 (12月2日(火)～12月5日(金))

使用言語：日本語・英語 (同時通訳あり)

招待講師

Speakers

国外講師

Robert Kavlock	EPA, USA
Joseph G. Vos	National Institute of Public Health and the Environment, Netherlands
Gerhard Winneke	University of Dusseldorf, Germany
Lizabeth Lopez-Carrillo	Mexican Institute of Public Health, Mexico
Glen Van Der Kraak	University of Guelph, Canada
John Sumpter	Brunel University, UK
Elaine Francis	EPA, USA
Tuomo Karjalainen	European Commission
John Adgate	University of Minnesota, USA
Herman B.W.M. Koëter	OECD
Tim Meredith	WHO
Terri Damstra	WHO
George Daston	Miami Valley Laboratories, USA
R. Thomas Zoeller	University of Massachusetts, USA

国内講師

井口 泰泉	岡崎国立共同研究機構
井上 達	国立医薬品食品衛生研究所
岩本 公宏	三井化学株式会社
及川 幸彦	気仙沼市立南小学校
鈴木 規之	独立行政法人国立環境研究所
田辺 信介	愛媛大学
長濱 嘉孝	岡崎国立共同研究機構
堀口 敏宏	独立行政法人国立環境研究所
森田 昌敏	独立行政法人国立環境研究所
森 千里	千葉大学大学院

[パネルディスカッション]

真鍋 賢二	参議院議員
愛知 治郎	参議院議員
田端 正広	衆議院議員
藤井 黎	仙台市長
森田 昌敏	独立行政法人国立環境研究所

※現在、交渉中の講師を含む。

Program

■ 一般向けプログラムの概要

特別講演	内分泌攪乱化学物質の野生生物への影響につきまして、WHOの「内分泌攪乱化学物質に関する科学的知見の現状についての国際的評価」(グローバルアセスメント)の策定に携わった、カナダのゲルフ大学のGlen Van Der Kraak教授にご講演いただきます。
これまでの取組	行政、研究者、産業界、教育者としての立場から、内分泌攪乱化学物質問題に関するこれまでの取組や現状をご紹介いただき、会場との質疑応答を行います
パネルディスカッション	これまで、内分泌攪乱化学物質問題に対して政治がどのように係わってきたのか、また今後政治に期待されることへの対応について、政治家の方々による意見交換を行います。

■ 専門家向けプログラムの概要

セッション1 海外の取組状況	海外での内分泌攪乱化学物質問題の現状とその取組について、ご紹介いただきます。
セッション2 基礎科学	内分泌攪乱化学物質はいろいろな動物の発生過程に様々な影響を及ぼすと疑われています。このセッションでは、生殖系、脳、甲状腺を取り上げ、これらの組織や器官に関する発生と分化の基本的制御機構やホルモン作用の分子メカニズムについての最新の研究成果と今後の展望についてご紹介いただきます。
セッション3 野生生物	無脊椎動物、魚類、鳥類などの野生生物に対する化学物質の影響についての最新の研究の取り組み状況と、野生生物への影響の現状と回復の状況についてご紹介いただきます。
セッション4 曝露	内分泌攪乱作用を有すると疑われている様々な化学物質をリスク評価する上で重要な、ヒトや野生生物への曝露量を正確に把握する方法等についてご紹介いただきます。
セッション5 人健康影響	環境中の化学物質によるヒトの健康影響についての最新の知見や、子供や胎児への環境リスクを評価し予防する研究活動についてご紹介いただきます。
セッション6 評価基準	世界中から内分泌攪乱作用によるものではないかと疑われている事象が報告されています。その中で主だった例を招待講師からご紹介いただき、ケース・スタディの形で、評価に必要な要素等について議論していただきます。
ポスターセッション	環境ホルモン学会(正式名：日本内分泌攪乱化学物質学会)主催により、ポスター発表が行われます。(12月2日より) ポスターでの発表を希望する方は、環境ホルモン学会(正式名：日本内分泌攪乱化学物質学会)事務局までお問い合わせください。 連絡先：TEL：029-859-0818 FAX：029-859-0851